

事業名 被災地ボランティアセンター支援事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>被災地のボランティアセンターの運営に関わることで被災地の復興支援を行うこと及び災害ボランティアセンターの運営を学ぶことで、今後の首都圏における災害発生時の中核となる人材を育成することを目的に、コーディネーターを平成 24 年度末までの長期にわたり派遣する事業及び1週間から1か月の短期間で派遣する事業を実施した。長期派遣の派遣先は気仙沼市、陸前高田市、短期派遣では、陸前高田市、登米市、釜石市、遠野市、南三陸町、多賀城市、仙台市に派遣を行い、複数の被災地の復興を支援することができた。</p> <p>長期派遣では、2地区に9人、延べ672人日、短期派遣では7地区に112人、延べ1,480人日を派遣した。これは長期では当初目標の735人日に及ばなかったが、短期派遣では当初目標の700人日を超えるものであった。</p> <p>被災地での取組みにおいては、長期派遣のコーディネーターは両市の災害ボランティアセンターにおいて運営の中心となって活動した。気仙沼市では、災害ボランティアセンターがコーディネーターを設置できなかった大島において災害ボランティアの受入れを行い、陸前高田市では災害ボランティアセンターのボランティア受入れからマッチング、ニーズ把握まで、広範な運営の支援を行い、地元のコーディネーターが不足する中で、全国からの災害ボランティアの受入れを円滑に行うことができた。また、今後の首都圏における災害発生時には、東京都の災害ボランティアセンター運営の中核を担うことができるノウハウを身につけた。</p> <p>短期派遣においては、多くの被災地におけるボランティアセンターに関わったため、様々なボランティアセンターの運営スタイルを派遣されたコーディネーターが学ぶ機会を得ることができ、今後の災害に備え、人材育成を行うことができた。</p>	4
2	市民性	<p>コーディネーターを継続的に長期派遣したことで気仙沼市では大島においても災害ボランティアの受入れが可能となった。また、陸前高田市においても、最盛期には1日あたり1,000人の災害ボランティアの受入れを可能にした。</p> <p>短期派遣を行った地域においても、災害ボランティアの受入れに効果があったが、それにとどまらず多くの市民（都民）が災害ボランテ</p>	5

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		<p>ピアコーディネーターの役割を経験することができ、今後の首都圏での災害時に、市民が災害ボランティアセンター運営に参加することを可能にする体験となった。</p>	
3	波及効果	<p>いずれも、災害発生後、他の地域と比べて災害ボランティアの受入れが遅れていた地域で、一方、多くのボランティアニーズを抱えて地元の災害ボランティアセンターでも対応に窮していた状況にあったが、センター運営を他の市民活動団体とも協働して軌道に乗せることができた。</p> <p>また、長期、短期のいずれの派遣コーディネーターも、今後の災害時には、都内各区市町村の災害ボランティアセンターにおいて、運営団体のスタッフとともに運営を行える中核人材としての経験を積むことができた。</p>	5
4	継続性		
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>コーディネーターの受入れ先である各災害ボランティアセンター、それを運営する社会福祉協議会等と連携して、変化する災害ボランティアのニーズ、災害ボランティアセンターの運営内容等に合わせた業務を災害ボランティアセンターにおいて行うことができた。その時々業務内容については、東京都の支援も受けながら、適切な取組みを検討し、進めることができた。</p> <p>災害ボランティアセンターの運営においては、NPO 法人をはじめとする多くの市民活動団体と情報を共有しながら、役割を分担しつつ、運営を行うことができた。</p>	4

合計点

18

ランク

S